

眼科科専攻医カリキュラム

1. 目標

日本眼科学界専門医制度の日本眼科学会専門医を習得することを目標に、一般臨床の診療・検査・手術などを習得すし、学会発表、論文作成を行う。

2. 研修スケジュール

年度	
1年度	外来・病棟勤務
2年度	外来・病棟勤務
3年度	外来・病棟勤務
終了後の予定	名古屋大学医学部眼科学教室に入局し、その上で当院でスタッフになるか、名古屋大学眼科学教室の関連施設で研修を続けるか、大学院への進学など、ここに対応する。

3. 診療科の特徴

眼科全般について、幅広く研修できる。手術症例が豊富で、特に網膜硝子体疾患に力を入れている。

4. 研修体制

1) 教育病院の指定の有無

日本眼科学会専門医制度研修指定病院

2) 研修カリキュラム

「日本眼科学会専門医制度眼科研修ガイドライン」に準拠。

3) 取得可能な認定医および取得可能な時期

日本眼科学会専門医制度の「日本眼科専門医」を取得

医師臨床研修制度に基づく2年間の臨床研修後4年間研修施設での研修後、専門医認定試験を受ける。

4) スタッフ体制

部長1名、副部長1名、医長1名、医員1名専攻医1名、研修医 1～2名

5) 症例検討会、抄読会等のスケジュール

(1) 症例検討会： 毎週1回金曜日 16時～18時、毎週1回水曜日 8時から8時30分

(2) 抄読会： 毎週1回金曜日 16時～18時

(3) 合同カンファレンス： 月1回金曜日 17時～19時

(4) その他：東三河眼科症例検討会2か月1回 19時30分～21時

6) 主な参加学会

日本眼科学会、日本臨床眼科学会、日本眼科手術学会、日本網膜硝子体学会、日本小児眼科学会、日本弱視斜視学会、日本眼内レンズ屈折手術学会、日本角膜学会など

7) 定期的に参加する研究会等

(1) 三河眼科研究会 年2回

(2) 名古屋大学眼科集談会 年1回

(3) 東三河眼科症例検討会 年6回

(4) Turumai Ophthalmic Seminar 年1回

1回

5. 主な経験目標

眼科臨床医に求められる基本的な診療に必要な知識・技能・態度の習得、一般的な初期救急医療に関する記述の習得

1) 診察法・検査・手技

(1) 診察法・検査法

視力、視野、眼底、眼位、眼球運動、両眼視機能、瞳孔、色覚、屈折、調節、隅角、眼圧、細隙灯顕微鏡検査、涙液検査、導涙検査、蛍光眼底造影検査、電気生理学的検査、画像診断(超音波、X線、CT、MRI、光干渉断層画像など)、細菌、塗抹標本検査など

(2) 基本的治療手技

点眼、結膜下注射、球後注射、ブジー、涙嚢洗浄、眼鏡とコンタクトレンズの処方及び装用指導、視能矯正訓練、ロービジョンケア、伝染性疾患の治療及び予防、眼外傷の救急処置、急性眼疾患の救急処置、眼科手術、手術患者の術前及び術後処置等、

(3) 基本的治療法

抗生剤の選択、副腎皮質ステロイドの使用法、ステロイドパルス療法、治療用コンタクトレンズなど
手術: 執刀者、助手を合わせて総数100例以上、そのうち、外眼手術、内眼手術、及びレーザー手術が、それぞれ執刀者として20例以上

2) 経験すべき症状・病態・疾患

(1) 症状

一般臨床で遭遇する眼に関連したあらゆる症状

(2) 病態

一般臨床で遭遇する眼に関連したあらゆる病態

(3) 疾患

一般臨床で遭遇する眼に関連したあらゆる疾患

3) 研究会・学会発表・論文発表

(1) 研究会発表 以下の研究会等のいずれかに年1回以上の発表を行う。

東三河症例検討会、名古屋大学眼科集談会など

(2) 学会発表 以下の学会のいずれかに2回以上の発表を行う。

日本眼科学会、日本臨床眼科学会、日本手術学会など

(3) 論文発表 眼科関連の学会誌のいずれかに単独または筆頭著者として1編以上の掲載を行う。